

# 香川地域継続検討協議会

## 第9回 勉強会

### 議事次第

日時：平成25年5月9日（木）  
13時30分～17時00分  
場所：高松サンポート合同庁舎  
あいホール（低層棟2階）

#### 1 話題提供

『2013年淡路島地震被害調査速報』（30分）

話題提供者：香川大学危機管理研究センター

副センター長／客員教授 岩原廣彦

『災害用衛星通信実験システムの研究開発-専門的技術者の不要な衛星地球局の開発を目指して-』（60分）

南海トラフ巨大地震のような大規模災害が発生すると、広域にわたり、通信インフラが損壊、地上系システムのみでは即応的な対応が困難な状況の発生が予想される。また、急激なトラフィック増加により通信インフラのトラフィック制御も大きな課題である。

NICTでは、普段は自治体ネットワークやバックアップ回線として活動されている衛星回線を、災害時に通信途絶の回避に活用するために、専門技術者の不要な衛星地球局を開発し、運用するためのモデルケースを構築している。

今回は、大規模災害が発生した時に容易に展開し、確実に動作する衛星通信網を構築できるフルオート可搬型地球局や走行しながら衛星通信が可能な移動体ブロードバンド衛星地球局をはじめて開発したので、それについて紹介する。

発表者：鄭炳表（独立行政法人情報通信研究機構ワイヤレスネットワーク研究所宇宙通信システム研究室、研究員）

#### 2 デモンストレーションと意見交換

『すばやく災害情報も収集できる小型車載局の紹介』（120分）

コーディネーター：鄭炳表（独立行政法人情報通信研究機構ワイヤレスネットワーク研究所宇宙通信システム研究室、研究員）

東日本大震災では、日本全国から災害対応組織が被災地域である東北地方へ

出動し、救援活動を行った。また、NICTの衛星グループも東京消防庁と一緒に被災地域に入り、衛星通信網を提供した。

移動中の部隊と通信ができなかったことから、現地との迅速な対応や活動方針などがうまく伝えられなく、移動中でも通信ができる衛星通信地球局を開発する必要性が浮き彫りになった。

小型車載地球局の開発により、移動中の救援組織が最新の詳細な被害状況を移動しながら把握することができ、現地で迅速な対応や、作戦変更などへの対応も可能となった。

今回のデモンストレーションにおいては、Ka帯衛星であるWINDSを活用し、移動しながら9Mbpsデータをリアルタイムで伝送する。具体的には、ハイビジョンのリアルタイム映像伝送と道路段差アプリについて動態展示を予定している。なお、本システムは、災害時の実働組織を意識したもので、ユーザ（道路管理関係、消防関係や防衛関係など）から期待されている技術である。

### 3 その他

- ・ 事務連絡

#### 配布資料

話題提供者説明資料：